

# 医療安全教育セミナー2011春季

－ リスクコミュニケーションの実習（第2回）－ リスク感受力向上の技術実習

会場：2011年4月3日（日）

会場：東京大学医学部医学教育研究棟13階セミナー室（定数200名）

東京都文京区本郷7-3-1。地下鉄丸の内線本郷三丁目駅徒歩10分。東大赤門付近。

主催：国際予防医学リスクマネジメント連盟

**受講対象者：**学会員、医療施設経営者、医療安全管理者、リスクマネージャー、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、法関係者、医療事務関係者、医療産業界関係者、学生、市民、その他

**趣旨：**本教育プログラムは、高度な医療安全活動のために必要となる、医療者と患者・遺族ないし医療従事者間のリスク・コミュニケーションに関する最新の技術習得を与えるものです。2010年3月の第1回目からの継続セミナーですが、まったくの新規の実習です。

## プログラム

■全体ガイダンス ■ 2011年4月3日（日）午前9時40分～午前10時

■講義 ■ 2011年4月3日（日）午前10時～午前12時

午前10時～午前11時

（講演Ⅰ）医療コミュニケーションとリスク感性の発達

荒木 正見 地域健康文化学研究所所長（日本赤十字九州国際看護大学教授などを経て現職）

午前11時10分～午前12時

（講演Ⅱ）違和感をキャッチする心身のコミュニケーションの基礎

荒木 登茂子 九州大学大学院医療経営・管理学講座医療コミュニケーション分野教授

■演習 ■ 2011年4月3日（日）午後1時～午後4時30分

（実習・ガイダンス）Ⅰ. 多重言語の体験的理解とコミュニケーショントレーニング

Ⅱ. ひやり・はっと場面等のリスクの解消に向けての論理的スキルアップ

指導担当：荒木 正見、荒木 登茂子

（内容）医療現場では多重言語が飛び交い、多くのリスクが潜んでいる。高度な医療安全活動のために、それらのリスクを解消する必要がある。そのためには、違和感をキャッチする感性を磨き、自他の理解と相互交流を図ることが求められる。今回は、小グループで上記の実習を行い、スキルアップを図る。

多数の臨床事例を背景とした今回の技術実習は、病院の安全のための臨床家の能力を開発します。

参加申込締め切り：2011年3月22日

定数(200名)になり次第、締め切ります。

参加費は下記ホームページに掲載した申込書をご覧ください。

医療安全教育セミナー2011春季  
—医療安全管理研修会事務局

国際予防医学リスクマネジメント連盟本部  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-7-12-102  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-36-2-103  
(Tel / Fax) 03--3817-6770  
(電子メール) jsrmpm-office@umin.net

研修会ホームページ <http://www.jsrmpm.org/RC2011/>